

# 日露戦争後の地方改良運動—高椋村是—



福井縣坂井郡 高椋村是 目次

現況之部

第一 總論

第二 沿革

第三 村條例其ノ他凡テノ規程

第四 町村制施行以來村長助役收入役ノ就職年月日及氏名

第五 戸口

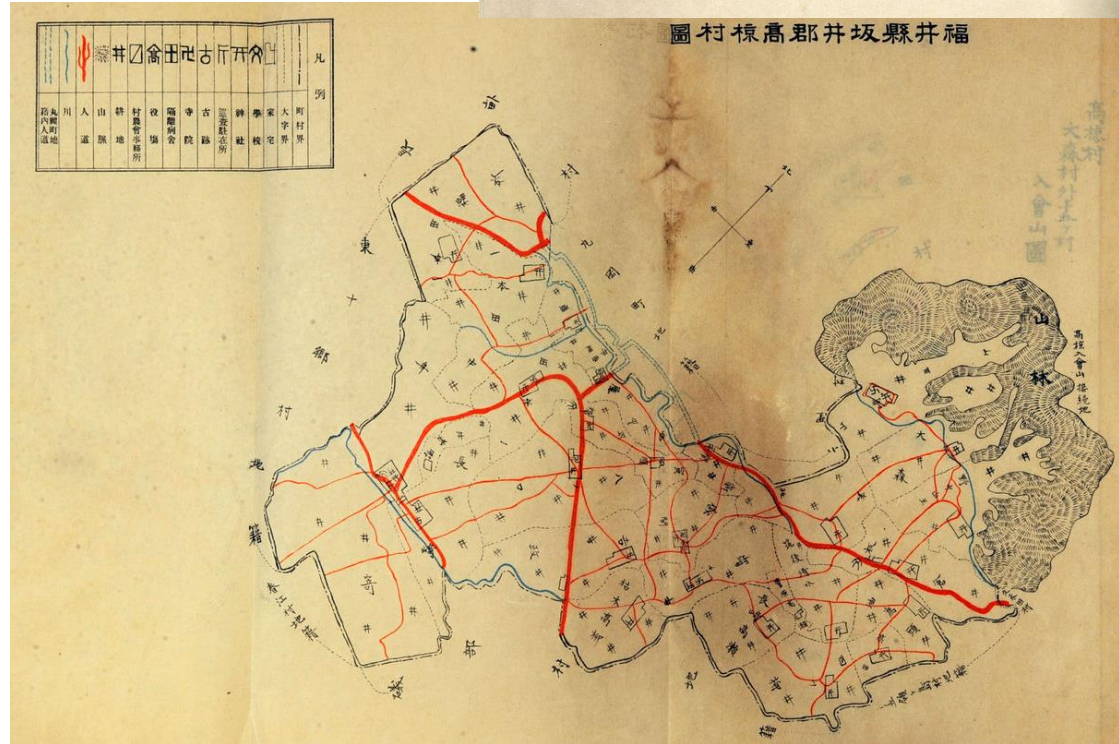
第六 職業別戸口

第七 幼壯年齢別

第八 就學歩合

第九 從軍々人調 (三十七八年戰役應召陸海軍共)

イ、本籍現在大字別戸數對照表  
 ロ、本籍及現在戸口對照表  
 ハ、本籍人口増加及ヒ其割合  
 ニ、現住人口増加及ヒ其割合



1909年(明治42)「村是」

田中善右衛門家文書(当館蔵) [デジタルアーカイブへ](#)

## 解説

日露戦争を契機に、世界列強に抗するための国力の増進はいつそう緊急な課題となり、とくに地方に対して「国家組織ノ根源」たる町村の行財政機構の整備・強化や経済力の充実が求められています

1908年(明治41)には国民教化をめざし戊申詔書が發布され、「宜ク上下心ヲ一ニシ、忠実業ニ服シ、勤儉産ヲ治メ、惟レ信惟レ義、醇厚俗ヲ成シ、華ヲ去リ実ニ就キ、荒怠相戒メ自彊息マサルヘシ」と、国運の発展に資するために国民生活における勤儉・協同一致の必要性が説かれました。そして翌年からは、内務省により「地方改良事業講習会」が開設され、全国の地方官吏を集めて国家を支えるべき地方「自治」のあり方が盛んに開催されています。

それ以後、「地方改良」を時代のスローガンに、町村体制の再編強化をはかる種々の施策が打ち出され、町村有力者の指揮をうけて住民の実践運動(地方改良運動)が本格的にくり広げられていきました。この官製国民運動は、1919年(大正8)以降の民力涵養・国民精神作興運動、さらに昭和前期の経済更生運動へと引き継がれていくこととなります。

## 福井とかかわり

福井県では、1909年(明治42)の皇太子北陸行啓が一つの契機となり、県や郡市町村が競って各種の記念事業を起こし、地方改良運動が推進しました。町村における地方改良運動の推進にあたっては、まず「町村是」を調査作成することが勧められています。たとえば三方郡では、1908年5月に郡長が管下各村に対して村是調査の着手を命じています。「町村是」とは、各々の町村が自らの手で沿革と現状を調査把握したうえで、将来に向けての目標や指針を打ち立てた書冊で、町村各自の地方改良運動を総覧するものでした。福井県では、1916年(大正5)までに全町村の9割をこえる160の町村がその調査作成を終えています。

## 資料の注目ポイント!!

資料は福井県坂井郡高椋村(現、坂井市丸岡町)作成の村是です。村内の状況(沿革、人口、農業など)を分析した「現況之部」と、組合の設置や農事の改良、副業奨励などの「将来之部」に分けて記述されています。また村域を示した地図なども掲載されています。

## 関連資料

名称	概要	備考
「村是」	田中善右衛門家文書（当館蔵） A0177 -00006	デジタルアーカイブ福井で閲覧可能。 <a href="https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-328722-1-p1">https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp/archive/da/detail?data_id=011-328722-1-p1</a>

## 参考文献

- ・『国史大辞典』 吉川弘文館
- ・『福井県史』 通史編5 近現代一 第二章 日清・日露戦争と県民 第三節 明治後期の教育・社会二 「地方改良」と地域社会
- ・『日本史（A B 共通） 教授資料 研究編』 山川出版社